

専任教員の実務経験

氏名	資格・実務経験	教育科目
島屋敷 英修	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	リハビリテーション概論 失語症Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 吃音 臨床作文 言語聴覚障害診断学Ⅰ
東 早代	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	成人聴覚障害Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 臨床心理検査法 言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 高次脳機能障害Ⅰ、Ⅱ
松田 知里	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語発達学 言語聴覚障害総論(小児) 言語聴覚障害概論(小児) 言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 言語発達障害(知的障害) 言語発達学演習Ⅰ、Ⅱ 機能性構音障害Ⅰ、Ⅱ
河野 真紀	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 言語発達学演習Ⅰ、Ⅱ 脳性麻痺Ⅰ、Ⅱ 学習障害 器質性構音障害 小児聴覚障害Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 関係法規
木佐貫 太陽	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員 公認心理士	コミュニケーション学 倫理学 臨床心理学 言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 摂食嚥下障害Ⅰ、Ⅱ 言語聴覚障害学特論Ⅰ、Ⅱ
木村 隆	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語聴覚障害総論(成人) 言語聴覚障害概論(成人) 言語聴覚障害診断学Ⅰ 運動性構音障害Ⅰ、Ⅱ 摂食嚥下障害Ⅰ、Ⅱ 言語聴覚障害学特論Ⅰ、Ⅲ

言語聴覚学科 (1年生)

専門課程(医療分野)

教育課程及び授業時数

区 分		科 目	規定単位	計 画 単 位 (時間)	1学年 単 位 (時間)	2学年 単 位 (時間)	3学年 単 位 (時間)	実務
基礎分野	人文科学	コミュニケーション学	2	2 (30)	2 (30)			○
		倫 理 学		2 (30)	2 (30)			○
	社会科学	心理学総論	2	2 (30)	2 (30)			
		社会福祉学		2 (30)	2 (30)			
	自然科学	統計学	2	2 (30)	2 (30)			
		生物学		1 (15)	1 (15)			
		物理学		1 (15)	1 (15)			
	外国語	情報科学	4	2 (30)	2 (30)			
		日常英語		4 (60)	4 (60)			
	保健体育	医学英語	2	4 (60)		4 (60)		
	保健体育	2 (60)		2 (60)				
		小 計	12	24 (390)	20 (330)	4 (60)		
専門基礎分野	基礎医学	医学総論	3	1 (15)	1 (15)			
		解剖学		2 (60)	2 (60)			
		生理学		2 (60)	2 (60)			
	臨床医学	病理学	6	1 (30)	1 (30)			
		内科学		1 (30)	1 (30)			
		小児科学		1 (30)		1 (30)		
		精神医学		1 (30)		1 (30)		
		リハビリテーション医学		1 (30)	1 (30)			
	臨床歯科医学	耳鼻咽喉科学	1	1 (30)		1 (30)		
		臨床神経学		2 (60)		2 (60)		
音声・言語聴覚医学	形成外科学	3	1 (15)		1 (15)			
	臨床歯科医学・口腔外科学		1 (30)		1 (30)			
心理学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	7	1 (30)		1 (30)			
	聴覚系の構造・機能・病態		1 (30)	1 (30)				
	神経系の構造・機能・病態		1 (30)		1 (30)			
	臨床心理学		1 (30)	1 (30)				
	臨床心理検査法		1 (30)		1 (30)			
言語学	生涯発達心理学	2	2 (60)	1 (30)	1 (30)			
	学習・認知心理学		2 (45)		2 (45)			
音声学	心理測定法	2	1 (15)		1 (15)			
音響学	言語学		2 (60)	2 (60)				
言語発達学	音声学	2	2 (60)	2 (60)				
社会福祉・教育	音響学		1 (30)	1 (30)				
	聴覚心理学	1	1 (15)			1 (15)		
臨床実習	言語発達学		2	1 (30)	1 (30)			○
	社会保障制度	1 (30)		1 (30)			○	
		リハビリテーション概論	2	1 (30)	1 (30)			
		関係法規		1 (15)			1 (15)	○
		小 計	29	35 (960)	19 (555)	14 (375)	2 (30)	
専門分野	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学総論(成人)	4	1 (30)	1 (30)			○
		言語聴覚障害学総論(小児)		1 (30)	1 (30)			○
		言語聴覚障害学概論(成人)		1 (30)	1 (30)			○
		言語聴覚障害学概論(小児)		1 (30)	1 (30)			○
		言語聴覚障害学診断学 I		1 (30)		1 (30)		○
	失語・高次脳機能障害学	言語聴覚障害学診断学 II	6	1 (30)			1 (30)	○
		失語症 I		1 (30)	1 (30)			○
		失語症 II		1 (30)		1 (30)		○
		失語症 III		1 (30)		1 (30)		○
		失語症 IV		1 (30)		1 (30)		○
言語発達障害学	高次脳機能障害 I	9	1 (30)		1 (30)		○	
	高次脳機能障害 II		1 (30)		1 (30)		○	
	言語発達障害(知的障害)		1 (30)	1 (30)			○	
	言語発達障害(広汎性発達障害)		1 (30)		1 (30)		○	
	言語発達学演習 I		1 (30)		1 (30)		○	
発声発語嚥下障害学	言語発達学演習 II	7	1 (30)			1 (30)	○	
	脳性麻痺 I		1 (30)		1 (30)		○	
	脳性麻痺 II		1 (15)		1 (15)		○	
	学習障害		1 (30)		1 (30)		○	
	音声障害学		1 (30)	1 (30)			○	
聴覚障害学	運動性構音障害 I	9	1 (30)	1 (30)			○	
	運動性構音障害 II		1 (30)		1 (30)		○	
	機能性構音障害 I		1 (30)		1 (30)		○	
	機能性構音障害 II		1 (15)		1 (15)		○	
	器質性構音障害		1 (30)		1 (30)		○	
臨床実習	摂食・嚥下障害 I	7	1 (30)		1 (30)		○	
	摂食・嚥下障害 II		1 (30)		1 (30)		○	
	吃音		1 (30)		1 (30)		○	
	小児聴覚障害 I		1 (30)	1 (30)			○	
	小児聴覚障害 II		1 (30)		1 (30)		○	
臨床実習	小児聴覚障害 III	8	1 (30)		1 (30)		○	
	成人聴覚障害 I		1 (30)	1 (30)			○	
	成人聴覚障害 II		1 (30)		1 (30)		○	
	成人聴覚障害 III		1 (15)		1 (15)		○	
	補聴器・人工内耳		1 (30)			1 (30)	○	
		視覚・聴覚二重障害	12	1 (15)			1 (15)	○
		臨床実習		12 (480)			12 (480)	○
		小 計	44	48 (1500)	8 (240)	22 (615)	18 (645)	
選択必修分野		言語聴覚障害学特論 I	8	1 (30)			1 (30)	○
		言語聴覚障害学特論 II		1 (30)			1 (30)	○
		言語聴覚障害学特論 III		1 (30)			1 (30)	○
		専門臨床特論 I (画像診断学)		1 (30)		1 (30)		○
		専門臨床特論 II (薬理学)		1 (15)			1 (15)	○
		専門臨床特論 III (基礎運動学)		1 (15)		1 (15)		○
		専門臨床特論 IV (栄養学)		1 (15)			1 (15)	○
		見学実習		1 (40)	1 (40)			○
		評価実習		3 (120)		3 (120)		○
		症例演習		1 (30)			1 (30)	○
臨床作文	1 (30)	1 (30)			○			
		小 計	8	13 (385)	2 (70)	5 (165)	6 (150)	
		合 計	93	120 (3235)	49 (1195)	45 (1215)	26 (825)	

- 【授業概要】** 言語聴覚士の介入対象は小児から成人と多岐に渡り、原因となる背景も様々である。多種多様な背景を持つ対象者が共通して抱えているコミュニケーションの問題について理解を深め、専門性を学ぶ土台を作ることを目的とする。また、医療におけるチームの一員としてのコミュニケーションについて学び、職業理解を深めることで、多職種連携についての基礎作りを行う。必要に応じてグループワークを実施する。
- 【到達目標】** コミュニケーションに障害を抱える対象者、家族についての支援の必要性を認識できるようになる。多職種連携におけるコミュニケーションの重要性とチームワークの必要性を認識できるようになる。グループワークを通して、意見や考えを伝える技術、合意形成の難しさと大切さを身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション	木佐貫
2	コミュニケーション論、多職種連携論	木佐貫
3	コミュニケーションの本質と目的	木佐貫
4	インタビュー演習、発表	木佐貫
5	意思決定支援、インフォームドコンセント、SDM	木佐貫
6	傾聴	木佐貫
7	バーバル・ノンバーバルコミュニケーション、コミュニケーションの手法	木佐貫
8	リーダーシップ、メンバーシップ、フォロワーシップ	木佐貫
9	チームアプローチにおける課題と対応、ファシリテーション	木佐貫
10	多職種連携とチーム医療(グループワーク) ①	木佐貫
11	多職種連携とチーム医療(グループワーク) ②	木佐貫
12	多職種連携とチーム医療(グループワーク) ③	木佐貫
13	多職種連携とチーム医療(グループワーク) ④	木佐貫
14	多職種連携とチーム医療(グループワーク) ⑤	木佐貫
15	講義まとめ	木佐貫
16	定期試験	木佐貫

- 【授業外学修】** 予習：前回の講義内容の概要を確認する(0.5時間)
復習：当日の講義内容の概要を確認する(0.5時間)
- 【教科書名】** 「リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論」医歯薬出版
- 【参考書名】** 必要に応じてプリント配布
- 【評価基準】** 講義参加態度(50%) 定期試験(50%)
- 【実務経験】** 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 セラピストがリハビリテーションを提供するにあたって、倫理的問題についての理解、解釈、解決法の検討が必要な機会が多く存在する。本講義では、医療倫理の原則を学び、グループワークで意見交換を実施し、多様な視点を共有する。グループでは司会、発表、記録を後退で担うこととする。
各役割を理解し、積極的に講義に参加すること。

【到達目標】 グループワークを通して自らの意見を伝えつつ、感受性を高めて多様な視点を身につける。
医療従事者として必要な倫理的概念を身につけ、今後の実習や臨床において、思考する力をつける。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーション	木佐貫
2	倫理の基本的概念	木佐貫
3	医療倫理原則、言語聴覚士の職業倫理	木佐貫
4	言語聴覚療法 評価・診断の倫理	木佐貫
5	事例検討①(グループワーク)	木佐貫
6	事例検討②(グループワーク)	木佐貫
7	事例検討③(グループワーク)	木佐貫
8	事例検討④(グループワーク)	木佐貫
9	事例検討⑤(グループワーク)	木佐貫
10	事例検討⑥(グループワーク)	木佐貫
11	事例検討⑦(グループワーク)	木佐貫
12	事例検討⑧(グループワーク)	木佐貫
13	事例検討⑨(グループワーク)	木佐貫
14	事例検討⑩(グループワーク)	木佐貫
15	講義まとめ	木佐貫
16	定期試験	木佐貫

【授業外学修】 グループワークでのワークシートを提出すること
なし

【教科書名】 リハビリテーション倫理事例集(「リハビリテーション専門職のための倫理教育教材の開発と検討」資料)

【参考書名】 PT・OS・STのための臨床に活かすエビデンスと意思決定の考え方(医学書院)

【評価基準】 ワークシート提出、講義参加態度(50%) 定期試験(50%)

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 心理学が日常生活と密接している学問であると理解できるよう、心理学の歴史と心理学に関する様々な知見を紹介する。
また国家試験対策として心理学に関する演習問題に取り組む。

【到達目標】 心理学でのさまざまな知見を概観しながら、人を科学的に理解する視点を持つようになることを目指す。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション/心理学とは?	金子
2	感覚・知覚	金子
3	記憶(1) 短期記憶	金子
4	記憶(2) 長期記憶	金子
5	学習(1) 古典的条件づけ	金子
6	学習(2) オペラント条件付け	金子
7	臨床心理学(1) 精神疾患の診断基準	金子
8	臨床心理学(2) 精神疾患の臨床像	金子
9	心理検査(1) 各種心理検査の紹介	金子
10	心理検査(2) 心理検査の活用法	金子
11	心理療法(1) 各種心理療法の紹介	金子
12	心理療法(2) 病院臨床の実際	金子
13	発達心理学	金子
14	社会心理学	金子
15	まとめ	金子
16	定期試験	金子

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「心理学」(東京大学出版会)および配布資料

【参考書名】 「言語聴覚士のための心理学」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験90%

授業態度10%:①忘れ物(教科書・配付資料など)なく授業へ参加 ②私語や居眠りなどなく授業に参加

【授業概要】 わが国は「人口減少・超高齢化・少子化」社会に直面し、社会保障全般にわたる抜本的な改革が急務となった。社会福祉分野も概念、対象、支援方法など全般にわたり大きな変革期を迎えている。本講では社会福祉に関する現状と課題を確認し、医療・保健、介護との関連、言語聴覚士と社会福祉の課題を包括的に学ぶ機会とする。

【到達目標】 1. 我が国における社会保障、社会福祉の現状と課題について包括的に理解できる。
2. 社会福祉制度に基づく様々なサービス内容、関係機関との連携について、言語聴覚士の機能・役割と関連づけて理解できる。
3. 福祉専門職の法的根拠、言語聴覚士との関連について事例を通し理解できる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーション:我が国における社会保障・社会福祉をとりまく状況。少子化、高齢社会、家族、貧困、地域社会の崩壊	毛利
2	社会福祉の基礎概念:考え方、ライフステージと社会福祉、対象とニーズ、社会福祉の専門性、ノーマライゼーション	毛利
3	社会福祉の仕組みと運営、社会福祉の機関と施設、社会福祉を支える人たち	毛利
4	所得保障:貧困化の実態と課題(子ども、家庭、若者、女性、高齢者)、公的扶助の仕組みと内容。公的年金制度、諸手当等	毛利
5	保健事業:保健所・市町村保健センターの機能 母子保健法等による子育て支援	毛利
6	障害者の福祉1:障害の概念 ICFと障害者基本法、ノーマライゼーション、バリアフリー	毛利
7	障害者の福祉2:障害者総合支援法によるサービス 障害別福祉法の内容 障害者虐待防止、障害者差別解消	毛利
8	前半のまとめ(中間試験)	毛利
9	医療保障制度:医療保険制度の概要、診療報酬とリハビリテーション、医療保険から介護保険へのつなぎと診療報酬	毛利
10	高齢者の福祉1:介護保険制度 制度創設の社会的背景 法の概要・仕組み サービス内容と利用方法	毛利
11	高齢者の福祉2:医療と介護の連携、リハビリテーションとの関連、介護保険制度によるサービス以外の老人福祉サービス	毛利
12	地域リハビリテーション「地域包括ケアシステム構築」	毛利
13	医療と関係法規:医療・福祉関係職の根拠法・身分法、保健・医療・福祉連携の法的根拠	毛利
14	地域福祉の理解、社会福祉援助技術について	毛利
15	全体のまとめ	毛利
16	定期試験	毛利

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「社会保障入門2024」(中央法規出版)

【参考書名】 『令和5年度版 厚生労働白書』(厚生労働省ホームページ参照)、厚労省がインターネットで配信する様々な審議会での参考資料等。

【評価基準】 総合評価100%:定期試験80%(中間試験、期末試験)授業態度10%、コメントカード等10%

【授業概要】 医科学領域において、とくに有益であると思われる統計学の基礎的な概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】 数学の理解には練習問題を解くことが大切である。教科書にそった具体的な問題も多く解いて学習する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	尺度の度数分布表の作り方	竹下
2	度数分布図の作成	竹下
3	代表値(1) 算術平均・幾何平均・調和平均	竹下
4	代表値(2) 中央値・最頻値	竹下
5	散布度(1) 標準偏差	竹下
6	散布度(2) 四分位偏差	竹下
7	相関と回帰(1) 相関係数	竹下
8	相関と回帰(2) 回帰直線	竹下
9	確率・順列・組み合わせ	竹下
10	確率分布(1) 正規分布	竹下
11	確率分布(2) カイ二乗分布・二項分布 他	竹下
12	母集団推定値の推定(1) 母平均の推定	竹下
13	母集団推定値の推定(2) 母平均の区間推定	竹下
14	仮説検定	竹下
15	まとめ	竹下
16	定期試験	竹下

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「やさしい保健統計学」(南江堂)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験80% レポート10% 授業態度10%:積極的な授業への参加

科目名： 生物学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 中村 麻理子

1単位

【授業概要】 解剖学、生理学、小児学等専門科目の履修に必要な生物学的基礎知識を学習する。

【到達目標】 生命および生体を構成する物質の構造や機能について学習する。細胞の基本構造と機能、生体の構成物質、代謝及びエネルギーの基礎的な内容をしっかりと把握する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	細胞の構造と生命誕生(細胞の構造と機能、生物の誕生と多様化、細胞間結合)	中村
2	生命体を構成する物質(高分子、アミノ酸とタンパク質、糖質、脂質、核酸)	中村
3	遺伝子の構造と機能(DNAの構造と複製、遺伝子の転写、翻訳)	中村
4	生体とエネルギー(酵素の働き、ATPとエネルギーの生産、解糖系と各種回路)	中村
5	生体とエネルギー(電子伝達系、血糖値とATP)	中村
6	生命体の連続性(細胞の分裂、情報伝達、がん化)	中村
7	生命体の受精と成長(生殖のしくみ、アポトーシスと個体の老化)	中村
8	多細胞生物の自己維持機構、まとめ	中村
9	定期試験	中村

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「やさしい基礎生物学 第2版」(羊土社)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験80% 授業態度10%:積極的な授業への参加 小テスト10%

【授業概要】 1年後期に行われる音響学の基礎知識を深めるために、物理の基礎から音の物理的側面を学ぶ。

【到達目標】 原理を物理的に理解し、音の性質を数式を用いて記述できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	波長、周期、周波数とそれらの関係	古川
2	縦波、横波、進行波と定常波、純音	古川
3	定常波と弦や管による共鳴、外耳道や声道への応用	古川
4	音階、うなり、ドップラー効果、回折、頭の陰影効果、反射と屈折	古川
5	音の強さと大きさ、音圧、音圧と音の強さの関係	古川
6	デシベルと対数計算、音圧比とデシベルの関係	古川
7	デシベルの基準値、フォン、音響利得	古川
8	まとめと復習	古川
9	定期試験	古川

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚士の音響学入門 第5版」(海文堂)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験70% 授業態度30%;積極的な授業への参加

【授業概要】 コンピューターは研究・教育やビジネスばかりではなく、家庭にも深く浸透する兆しをみせている。コンピューター利用に関する基礎的知識を習得して各種アプリケーションをうまく利用することを学ぶ。また、めまぐるしく流動する情報通信技術やユビキタス社会の流れに乗り遅れないようにするため、情報化社会を取り巻く文化的・科学的・工学的・経済的・社会的な課題を実例に取り上げ講義を進める。

【到達目標】 情報科学に関する基礎的知識を習得し、各種アプリケーションをうまく利用することを学ぶ。さらに将来における実務業務や研究活動などに情報学全般の知識を用いたアプローチができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容		担当教員
1	情報学の概要	コンピュータの成り立ちと近年の情報通信技術やユビキタス社会の紹介	難波
2	デジタルコンテンツ	幅広いデジタル<コンテンツを紹介し、一例に画像の編集加工を学ぶ	難波
3	アニメーション制作	GIFアニメーションの作成を行う①	難波
4	アニメーション制作	GIFアニメーションの作成を行う②	難波
5	Microsoft-Power point	Microsoft-Power pointを利用して自己紹介資料の作成①	難波
6	Microsoft-Power point	Microsoft-Power pointを利用して自己紹介資料の作成②	難波
7	パブリック・スピーキング	情報機器を活用しての自己紹介の発表	難波
8	Microsoft-Word	Microsoft-Wordを利用しての公用文の作成①	難波
9	Microsoft-Word	Microsoft-Wordを利用しての公用文の作成②	難波
10	Microsoft-Excel	Microsoft-Excelを利用しての表計算①	難波
11	Microsoft-Excel	Microsoft-Excelを利用しての表計算とグラフの出力②	難波
12	プログラミング基礎	各種演算をプログラムにより解く。基礎編	難波
13	プログラミング基礎	簡易なアニメーションをプログラムにより作成。実践編	難波
14	情報解析学	各種検定の紹介と実践、回帰・相関分析の例題と実践	難波
15	総括 まとめ	学修のまとめと総括	難波

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】**【参考書名】**

配付資料

【評価基準】

課題進捗達成度 70% 授業態度30%・積極的な授業への参加

科目名： 日常英語(前期)

授業形態： 講義

担当教員：

知念 潔
通年 4単位

【授業概要】 英文法を復習する。

【到達目標】 英文法の基礎を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	Unit1. Be動詞	知念
2	Unit2. 一般動詞(現在)	知念
3	Unit3. 一般動詞(過去)	知念
4	Unit4. 進行形	知念
5	Unit5. 未来形	知念
6	Unit6. 助動詞	知念
7	Unit7. 名詞、冠詞	知念
8	Unit8. 代名詞	知念
9	Unit9. 前置詞	知念
10	Unit10. 形容詞・副詞	知念
11	Unit11. 比較①	知念
12	Unit11. 比較②	知念
13	Unit12. 命令文、感嘆文	知念
14	Unit13. 接続詞(I)①	知念
15	Unit13. 接続詞(I)②	知念
16	定期試験	知念

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「English Primer(Revised Edition)大学生の英語入門」(南雲堂)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 日常英語(後期)

授業形態： 講義

担当教員：

知念 潔

【授業概要】 英文法を復習する。

【到達目標】 英文法の基礎を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	Unit14. 不定詞(I)、動名詞(I)	知念
2	Unit15. 受動態	知念
3	Unit16. 現在完了①	知念
4	Unit16. 現在完了②	知念
5	Unit17. 接続詞(II)①	知念
6	Unit17. 接続詞(II)②	知念
7	Unit18. 5つの文型①	知念
8	Unit18. 5つの文型②	知念
9	Unit19. 各種の疑問文	知念
10	Unit20. 不定詞(II)①	知念
11	Unit20. 不定詞(II)②	知念
12	Unit21. Itの特別用法	知念
13	Unit22. 分詞、動名詞(II)	知念
14	Unit23. 関係代名詞①	知念
15	Unit23. 関係代名詞②	知念
16	定期試験	知念

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「English Primer(Revised Edition)大学生の英語入門」(南雲堂)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】

複数のスポーツ種目で、ルールや特性を理解する。基本的なテクニックを習得し、主にゲーム中心の活動を行う。
座学は保健・医療に関連したテーマを設定し、講義形式で行う。

【到達目標】

運動・スポーツに親しみを持ち、身体を動かす楽しみを学び積極的かつ協調性をもって活動する。
保健・医療に対する幅広い知見を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション・レク活動	岩元
2	バレーボール&バドミントン①	岩元
3	バレーボール&バドミントン②	岩元
4	バレーボール&バドミントン③	岩元
5	バレーボール&バドミントン④	岩元
6	バレーボール&バドミントン⑤	岩元
7	座学	岩元
8	バレーボール&バドミントン①	岩元
9	バレーボール&バドミントン②	岩元
10	バレーボール&バドミントン③	岩元
11	バレーボール&バドミントン④	岩元
12	バレーボール&バドミントン⑤	岩元
13	バレーボール&バドミントン⑥	岩元
14	バレーボール&バドミントン⑦	岩元
15	座学	岩元

【授業外学修】 予習： 感染症対策・体調をしっかり整え、授業に臨むこと
復習： 感染症対策を確実にに行い、健康管理に留意する

【教科書名】 特になし

【参考書名】

【評価基準】 受講態度80%(競技への意欲・関心40%、競技への積極的な参加40%)協調性)10%(準備・片づけなど)、小テスト10%

【授業概要】

複数のスポーツ種目で、ルールや特性を理解する。基本的なテクニックを習得し、主にゲーム中心の活動を行う。
座学は保健・医療に関連したテーマを設定し、講義形式で行う。

【到達目標】

運動・スポーツに親しみを持ち、身体を動かす楽しみを学び積極的かつ協調性をもって活動する。
保健・医療に対する幅広い知見を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション・レク活動	岩元
2	バスケットボール&フットサル①	岩元
3	バスケットボール&フットサル②	岩元
4	バスケットボール&フットサル③	岩元
5	バスケットボール&フットサル④	岩元
6	バスケットボール&フットサル⑤	岩元
7	バスケットボール&フットサル⑥	岩元
8	バスケットボール&フットサル⑦	岩元
9	バスケットボール&フットサル⑧	岩元
10	バスケットボール&フットサル⑨	岩元
11	バスケットボール&フットサル⑩	岩元
12	バスケットボール&フットサル⑪	岩元
13	バスケットボール&フットサル⑫	岩元
14	バスケットボール&フットサル⑬	岩元
15	座学	岩元

【授業外学修】 予習： 感染症対策・体調をしっかり整え、授業に臨むこと
復習： 感染症対策を確実にに行い、健康管理に留意する

【教科書名】 特になし

【参考書名】

【評価基準】 受講態度80%(競技への意欲・関心40%、競技への積極的な参加40%)協調性)10%(準備・片づけなど)、小テスト10%

科目名： 医学総論(前期)

授業形態： 講義

担当教員：

横山 幸三

1単位

【授業概要】 医療の歩みや変遷を学び、保健・医療・福祉制度を総合的に理解する。

【到達目標】 医療の理念、医療者としての役割を学び、診療のシステムに対する知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	援助と共感、死と健康	横山
2	健康日本21、予防医学、ヒポクラテスの誓い	横山
3	障害分類、リハビリテーション、ノーマライゼーション、インクルージョン	横山
4	保健行政(保健所、保健センター、医療保険)	横山
5	精神医療、環境破壊、公害	横山
6	有害事象、医療過誤	横山
7	疫学研究、フレイル、サルコペニア	横山
8	介護保険	横山
9	定期試験	横山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「系看 総合医療論」(医学書院)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 解剖学(前期)

授業形態： 講義

担当教員：

松井 竜太郎

通年 2単位

【授業概要】 人体の仕組みと成り立ちを形態及び機能的に学ぶ。

【到達目標】 人体の循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の各器官の名称を理解し、書くことができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	総論	松井
2	循環器系(心臓、肺循環、体循環)	松井
3	循環器系(動脈系と静脈系)	松井
4	循環器系(リンパ系と血球)	松井
5	総論、循環器系のまとめ	松井
6	呼吸器系(鼻腔、喉頭)	松井
7	呼吸器系(気管、気管支、肺)	松井
8	消化器系(口腔、咽頭、食道、胃)	松井
9	消化器系(大腸、小腸)	松井
10	消化器系(肝臓、胆嚢、膵臓)	松井
11	呼吸器系、消化器系のまとめ	松井
12	泌尿器系	松井
13	生殖器系	松井
14	内分泌系	松井
15	泌尿器、生殖器、内分泌系のまとめ	松井
16	定期試験	松井

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OT・STのための解剖学 第5版」(廣川書店)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 解剖学(後期)

授業形態： 講義

担当教員：

松井 竜太郎

【授業概要】 人体の仕組みと成り立ちを形態及び機能的に学ぶ。

【到達目標】 人体の循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の各器官の名称を理解し、書くことができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	感覚器系	松井
2	感覚器系のまとめ	松井
3	神経系(脳、脊髄)	松井
4	神経系(脳幹、小脳、大脳)	松井
5	神経系(脳神経、自律神経)	松井
6	神経系(自律神経)	松井
7	神経系(伝導路、反射)	松井
8	神経系のまとめ①	松井
9	神経系のまとめ②	松井
10	骨格系(顔面頭蓋骨、脊柱)	松井
11	骨格系(上肢骨、下肢骨、関節)	松井
12	筋系(表情筋、咀嚼筋)	松井
13	筋系(胸腹部、上肢下肢の筋)	松井
14	骨格系、筋系のまとめ	松井
15	後期全体の総括	松井
16	定期試験	松井

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OT・STのための解剖学 第5版」(廣川書店)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 生理学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 濱田 倫史
通年 2単位

【授業概要】 活動している個体やその構成要素が果たす機能を探る学問である生理学について、総論、各論に分けて教科書、スライド、プリントを用いて学ぶとともに、随時国家試験対策を交えていく。

【到達目標】 生理学について理解できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	生理学の基礎	濱田
2	血液	濱田
3	循環(1)	濱田
4	循環(2)	濱田
5	呼吸(1)	濱田
6	呼吸(2)	濱田
7	消化と吸収(1)	濱田
8	消化と吸収(2)	濱田
9	栄養と代謝	濱田
10	体温(1)	濱田
11	体温(2)	濱田
12	排泄	濱田
13	内分泌(1)	濱田
14	内分泌(2)	濱田
15	内分泌(3)	濱田
16	定期試験	濱田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「生理学 第3版」(医歯薬出版)

【参考図書】 「カラーで学ぶ解剖生理学」(医学書院)

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 生理学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 濱田 倫史

【授業概要】 活動している個体やその構成要素が果たす機能を探る学問である生理学について、総論、各論に分けて教科書、スライド、プリントを用いて学ぶとともに、随時国家試験対策を交えていく。

【到達目標】 生理学について理解できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	生殖、成長と老化	濱田
2	神経の基礎(1)	濱田
3	神経の基礎(2)	濱田
4	中枢神経系	濱田
5	自律神経系	濱田
6	筋(1)	濱田
7	筋(2)	濱田
8	運動(1)	濱田
9	運動(2)	濱田
10	感覚(1)	濱田
11	感覚(2)	濱田
12	生体の防御機構(1)	濱田
13	生体の防御機構(2)	濱田
14	身体活動の協調(1)	濱田
15	身体活動の協調(2)	濱田
16	定期試験	濱田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「生理学 第3版」(医歯薬出版)

【参考図書】 「カラーで学ぶ解剖生理学」(医学書院)

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 病理学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 赤坂 恵理

1単位

【授業概要】 教科書、パワーポイントを使用して説明する。

【到達目標】 正常な組織の知識を基礎に、どのように病気が発生し、どのような症状を呈するのか理解できる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	病理学の領域	赤坂
2	細胞・組織とその障害①	赤坂
3	細胞・組織とその障害②	赤坂
4	再生と修復	赤坂
5	循環障害	赤坂
6	炎症	赤坂
7	免疫とアレルギー	赤坂
8	感染症	赤坂
9	代謝異常	赤坂
10	老化と老年病	赤坂
11	新生児の病理	赤坂
12	先天異常	赤坂
13	腫瘍①	赤坂
14	腫瘍②	赤坂
15	生命の危機	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「カラーで学べる病理学」(ヌーヴェルヒロカワ)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験90% 授業態度10%:積極的な授業への参加

科目名： 内科学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 赤坂 恵理

1単位

【授業概要】 簡単に解剖・生理の復習を行い、それから疾患の病態生理や治療など、話を広げていく。
問題集を使用するので、たまにあてて積極的に答えてもらう。

【到達目標】 要点を理解し、効率的に学習を進められるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	内科学とは 内科的診断と治療の実際	赤坂
2	症候学	赤坂
3	循環器疾患	赤坂
4	呼吸器疾患	赤坂
5	消化器疾患①	赤坂
6	消化器疾患②	赤坂
7	肝胆膵疾患	赤坂
8	血液・造血器疾患①	赤坂
9	血液・造血器疾患②	赤坂
10	代謝性疾患①	赤坂
11	代謝性疾患②	赤坂
12	内分泌疾患	赤坂
13	腎・泌尿器疾患	赤坂
14	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症	赤坂
15	感染症	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版」(医学書院)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験90% 授業態度10%:積極的な授業への参加

【授業概要】 リハビリ専門職を目指す学生にとって、その理解は不可欠である。
リハビリテーションの必要性について疾患及び障害と結びつけながら必要なリハビリテーションについて学ぶ。

【到達目標】 疾患及び障害に準じたリハビリテーションの展開を理解できるようにすること。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	リハビリテーションの理解	上土橋
2	疾患別リハビリテーション1(脳血管障害)	上土橋
3	疾患別リハビリテーション2(神経筋疾患)	上土橋
4	疾患別リハビリテーション3(運動器疾患)	上土橋
5	疾患別リハビリテーション4(運動器疾患)	上土橋
6	疾患別リハビリテーション5(糖尿病、がん、廃用症候群)	川津
7	疾患別リハビリテーション6(呼吸器・心疾患)	川津
8	疾患別リハビリテーション7(脳性麻痺、発達障害)	川津
9	AAC(拡大代替コミュニケーション)	島屋敷
10	聴覚系のリハビリテーション	東
11	小児リハビリテーション	河野
12	高次脳機能障害リハビリテーション全般	木佐貫
13	摂食・嚥下リハビリテーション全般	木村
14	理学療法について	藤元
15	作業療法について	植村
16	定期試験	担当教員

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「リハビリテーション ビジュアルブック」(学研)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 言語聴覚士として必要な聴覚器官の解剖学・生理学に関する基礎知識を身につけ、各疾患の病態生理・診断・リハビリテーション等について理解し、さらに臨床の現場で要求される応用力を養う。

【到達目標】 単なる用語の記憶にとどまることなく、視覚的に聴覚器官の正常解剖をイメージし、聴覚生理をきちんと理解することにより、病態・疾患学についても「なぜそうなるのか？」を説明できる能力を身に付ける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	聴器の発生	赤坂
2	聴器の構造と機能①	赤坂
3	聴器の構造と機能②	赤坂
4	聴器の構造と機能③	赤坂
5	聴器の構造と機能④	赤坂
6	聴器の構造と機能⑤	赤坂
7	聴器の構造と機能⑥	赤坂
8	聴覚・平衡機能の検査①	赤坂
9	聴覚・平衡機能の検査②	赤坂
10	外耳疾患	赤坂
11	中耳疾患	赤坂
12	内耳・後迷路疾患	赤坂
13	顔面神経麻痺、聴神経腫瘍	赤坂
14	練習問題①	赤坂
15	練習問題②	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと(約1時間)

【教科書名】 「病気がみえる耳鼻咽喉科」(メディックメディア)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験90% 授業態度10%:積極的な授業への参加

- 【授業概要】** 言語聴覚士は、疾患や障害などによって生活に影響を受けている人々に対して、様々な支援を行う。リハビリテーション専門職として対象者に関わる上で、疾患や障害構造を踏まえた対人技法が求められる。心理学の基礎から心理検査、アセスメントについて学び、対象者への心理状態と対応を理解する。国家試験問題に触れ、学術的理解を深め、検査と治療を学ぶ土台とする。

- 【到達目標】** 心理学に関する理論や提唱者を関連づけて理解できるようになる。
リハビリテーション専門職に必要な課題解決能力を身につける。
アセスメント、治療を心理学的観点から考えられるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション、国家試験概要	木佐貫
2	パーソナリティ理論① 類型論	木佐貫
3	パーソナリティ理論② 特性論	木佐貫
4	発達と知能 ①発達障害 ASD、ADHD、LD、対応	木佐貫
5	発達と知能 ②摂食障害、自我同一性の障害	木佐貫
6	発達と知能 ③不登校、ひきこもり、場面緘黙	木佐貫
7	異常心理 ①概論	木佐貫
8	異常心理 ②気分障害、統合失調症、心的外傷およびストレス関連障害	木佐貫
9	異常心理 ③パーソナリティ障害、不安症、強迫症、心身症、意識障害、診断基準	木佐貫
10	国家試験対策	木佐貫
11	臨床心理学的アセスメント ①知能検査、発達検査	木佐貫
12	臨床心理学的アセスメント ②パーソナリティ検査、面接法、行動観察	木佐貫
13	心理療法 ①クライアント中心療法、精神分析療法、遊戯療法	木佐貫
14	心理療法 ②行動療法、応用行動分析(ABA)、認知療法、認知行動療法	木佐貫
15	講義まとめ、国家試験対策	木佐貫
16	定期試験	木佐貫

- 【授業外学修】** 予習：講義前に該当する教科書・資料等を読んでおくこと(0.5時間)
復習：授業内容を整理し、教科書での振り返りを行うこと。

【教科書名】 「はじめての講義シリーズ リハビリテーションのための臨床心理学」(南江堂)

【参考書名】 「言語聴覚士のための心理学 第2版」(医歯薬出版)
「リハベーシック 心理学・臨床心理学」(医歯薬出版)
「言語聴覚士テキスト 第3版」(医歯薬出版)
検討中です

【評価基準】 定期試験(100%)

科目名： 生涯発達心理学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 松田 千鶴

1単位

【授業概要】 近年において発達とは、青年期までの上昇的变化と捉えるだけでなく、老後の変化も含めた「生涯発達」と考えられている。人生をより豊かに生きるために、「人間は生涯発達する」ことを理論的に、実証的に理解する。

【到達目標】 幅広い視野を持つことで、多くの実感を得る。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	発達の意義と原理	松田
2	実感する、分かることの取り組み	松田
3	発達の課題、発達理論	松田
4	Erikson EHについて	松田
5	Piaget JIについて	松田
6	Freud SIについて	松田
7	発達課題の研究法	松田
8	出生前発達と出生	松田
9	赤ちゃんと呼ばれる時期	松田
10	新生児期	松田
11	ことばの発達	松田
12	乳児・幼児前期① 身体発達	松田
13	乳児・幼児前期② 情緒発達	松田
14	幼児期① 身体・情緒発達	松田
15	幼児期② あそびについて	松田
16	定期試験	松田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「生涯人間発達学 第2版」(三和書店)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験70% レポート・小テスト20% 授業態度10%:積極的な授業への参加

科目名： 言語学(前期)

授業形態： 講義

担当教員：

大野 克彦
通年 2単位

【授業概要】 言語の特性を概観し、音韻論・形態論・統語論・意味論を中心に、言語それ自身の構造を明らかにする。

【到達目標】 ・これまで以上に、ことばに深く関心をもつようになる。
・言語学の諸領域における基礎的な概念や基本用語を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	言語学の諸分野	大野
2	言語の特性(1) -フェルディナン・ド・ソシュール	大野
3	言語の特性(2) -アンドレ・マルチネ	大野
4	音声学とは何か	大野
5	音韻論(1) -音素、異音	大野
6	音韻論(2) -音素設定の方法、相補分布と自由変位	大野
7	音韻論(3) -日本語の音素と異音	大野
8	形態論(1) -形態素とその分野	大野
9	形態論(2) -異形音	大野
10	形態論(3) -語形成(派生形態論)	大野
11	統語論(1) -直接構成素分析	大野
12	統語論(2) -生成文法のしくみと句構造規則	大野
13	意味論(1) -意味の成分分析と意義素	大野
14	意味論(2) -類義語、多義語、同音異義語	大野
15	意味論(3) -句・文の意味と比喻	大野
16	定期試験	大野

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚療法学テキスト 言語学・言語発達学」(メジカルビュー)

【参考書名】 適宜、授業中に指示する

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 言語学(後期)

授業形態： 講義

担当教員：

大野 克彦

【授業概要】 最初の数回で、言語学のその他の領域を概観し、その後、言語学的に見た日本語の特徴を分析・考察する。

【到達目標】 ・言語学の諸領域における基礎的な概念や基本用語を習得する。
・日本語に特徴的な音韻・形態・統語上の言語現象を深く理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	語用論	大野
2	社会言語学	大野
3	類型論	大野
4	対照言語学	大野
5	文字論	大野
6	日本語音韻論(1) -音素、異音	大野
7	日本語音韻論(2) -拍、音節	大野
8	日本語音韻論(3) -アクセント、イントネーション	大野
9	日本語形態論(1) -接辞、合成語	大野
10	日本語形態論(2) -連濁、転音、音便	大野
11	日本語形態論(3) -屈折形態論	大野
12	日本語統語論(1) -ヴォイス、テンス	大野
13	日本語統語論(2) -アスペクト、モダリティ	大野
14	日本語統語論(3) -極性、トピック、複文の構造	大野
15	日本語の語種、待遇表現	大野
16	定期試験	大野

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚療法学テキスト 言語学・言語発達学」(メジカルビュー)

【参考書名】 適宜、授業中に指示する

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 音声学(前期)

授業形態： 講義

担当教員：

上田 裕市
 通年 2単位

【授業概要】 音声学の前半として、「音韻論」と「調音音声学」を中心に講義する。
 具体的には、音声言語の特異性や各種音素の構音方法による音素の分類法、
 音素記号や音声記号[国際音声字母(IPA)]を用いた音素の表記法、超分節的特徴の記述法などを学ぶ。
 特に、日本語の母音と破裂音、鼻音、摩擦音、破擦音、弾音などの子音の特質を把握することで、
 音声障害における異常構音の区別とその客観的記述に役立てることができる。

【到達目標】

- ・音声から音素レベルに至る音声言語の分節的構造を理解する。
- ・任意の単語を音素表記および音声表記(IPA)で記述できるようになる。
- ・主な日本語音素の構音方法を理解し、それぞれの音声学的名称を答えることができる。
- ・任意の発話音声のIPA表記を基にして、異常構音箇所を指摘できる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	音声学の体系～調音音声学から音響音声学、聴覚音声学へ	上田
2	音声言語の構造と日本語音韻体系の概要～形態素から音素へ	上田
3	音素表記法と音声表記法(IPA)による音声表現	上田
4	音声器官の構造と発話の仕組み…発声と構音(調音)	上田
5	母音の分類基準、母音構音と基本母音図・音声学的名称	上田
6	子音の構音と分類…上位/下位調音器官の組み合わせと子音の構音位置	上田
7	子音の構音と分類…気流の妨害方法の違いと子音の構音様式	上田
8	閉鎖性(破裂性)子音の分類と音声学的名称	上田
9	鼻音の分類と音声学的名称	上田
10	摩擦性子音の分類と音声学的名称	上田
11	弾音・接近音(半母音)の構音	上田
12	主要構音(調音)と副次構音(調音)	上田
13	連続音声発話における構音の特徴	上田
14	超分節的特徴とその記述法	上田
15	健常音声、障害音声の特徴とその記述	上田
16	定期試験	上田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
 復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 事前配布する講義レジュメに追って授業を進める
【参考書名】 「音声学入門」(大学書林)「日本語音声学入門」(三省堂)など
【評価基準】 定期試験100%

科目名： 音声学(後期)

授業形態： 講義

担当教員：

上田 裕市

【授業概要】 前期に学ぶ「調音音声学」に続けて、「音響音声学」について講義する。
 音響学に関する基礎を学んだ後、音声の物理音響的側面を理解する。
 具体的には、音声波形とスペクトル構造の解析により、有声音の基本周波数・母音ホルマント・
 代表的な子音のスペクトル特徴などの代表的な音響的特徴量を学び、
 発話における調音運動とその音響的特徴の対応関係の理解につなげる。

【到達目標】

- ・音に関する客観的/主観的尺度を理解する。
- ・音声のスペクトル表現(連続性—離散性、高調波構造)の意味が分かる。
- ・母音のホルマント周波数と基本周波数(ピッチ)の意味が分かり、調音運動との関係が説明できる。
- ・摩擦音と破裂音のスペクトル構造の特徴とその違いを説明できる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	音響学の基礎…音の3要素とその客観的/主観的尺度	上田
2	音の強さと大きさ、音の振動数と高さ、音の波形と音色	上田
3	音声波形とスペクトル…ピッチと倍音	上田
4	波形・スペクトル表現における有声音と無声音の違い	上田
5	母音生成の音響理論	上田
6	母音生成とホルマント周波数	上田
7	母音発声実験によるピッチ・ホルマント観測	上田
8	子音生成の音響理論	上田
9	閉鎖性子音と摩擦性子音の音響的特徴	上田
10	鼻音・弾音・接近音の音響的特徴	上田
11	子音の音響的特徴量の総括	上田
12	スペクトル観測による音声特徴の分類法	上田
13	超分節的特徴としての御強敵特徴量	上田
14	連続音声の音響的特徴における文脈効果	上田
15	話者変動や音声障害による音響的特徴の変動	上田
16	定期試験	上田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
 復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 事前配布する講義レジュメに沿って授業を進める
【参考書名】 「音声学入門」(大学書林)「日本語音声学入門」(三省堂)など
【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 音の初歩的内容からスタートし、言語聴覚士として実践に役立つようパソコンでの演習を取り入れながら、授業を進め、最終的には初歩的な音声分析を可能とすることを目標とする。

【到達目標】 毎回の授業で習ったことを必ず復習すること。そして疑問点は必ず質問すること。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	音の要素、“音”とは何か？ 音の三要素 位相の度数表現とラジアン表現、波長	難波
2	音圧からデシベル計算まで、指数 常用対数	難波
3	対数の法則	難波
4	対数の法則 逆対数	難波
5	音の強さのレベル(IL:Intensity Level)、音圧レベル(SPL:Sound Pressure Level) 増幅(増加)と減衰	難波
6	増幅(増加)と減衰	難波
7	音の分析、複合音 スペクトル、線スペクトルと連続スペクトル	難波
8	試験 スペクトル、スペクトログラム、オクターブ(oct:octave) 表現、サンプリング周波数	難波
9	音声、音源・フィルタ理論 音響管(一方が開いた管について)	難波
10	音源と音響管	難波
11	音声の生成 音声と言語	難波
12	子音と母音 声帯と声道等の音響特性	難波
13	口腔と鼻腔について ラウドネスレベルとラウドネス、音の高さとメル尺度	難波
14	等ラウドネス曲線測定 最小可聴限界の測定 マスキング効果の測定、カクテルパーティー効果、ハース効果	難波
15	まとめ	難波
16	定期試験	難波

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚士の音響学入門」(海文堂出版株式会社)プリント等 配付資料

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 発達段階の期ごとに、標準的な言語発達の様相を知る。
発達段階の期ごとに、標準的な言語発達を促す要因を理解する。

【到達目標】 定型発達児の言語発達・コミュニケーション能力の発達についてきちんと説明できる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	言語発達を説明する理論(学習説、生得説)	松田
2	言語発達を説明する理論(認知説、社会相互作用説)	松田
3	ことばの発達段階(前言語期)①聴くことの発達	松田
4	ことばの発達段階(前言語期)②話すことの発達	松田
5	ことばの発達段階(前言語期)③コミュニケーションの発達	松田
6	ことばの発達段階(前言語期)④評価	松田
7	ことばの発達段階(語彙獲得期)①初語	松田
8	ことばの発達段階(語彙獲得期)②語彙の爆発的増加	松田
9	ことばの発達段階(語彙獲得期)③評価	松田
10	ことばの発達段階(幼児期)①語彙の発達	松田
11	ことばの発達段階(幼児期)②構文の発達	松田
12	ことばの発達段階(幼児期)③語用・談話の発達	松田
13	ことばの発達段階(児童期)①学習言語	松田
14	ことばの発達段階(児童期)②読み書きの発達	松田
15	まとめ・復習	松田
16	定期試験	松田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚療法学 テキスト 言語学・言語発達学」(メジカルビュー社)

【参考書名】 独自の資料

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 社会保障制度（前期）

授業形態： 講義

担当教員： 柳田 明日香

1単位

【授業概要】 本講義は、国民の生活を保障する医療、介護、年金などの社会保障制度の現状と課題を理解することを目的とする。少子高齢化の進行、財政状況が深刻化する中、どのような社会保障制度の構築が必要か考えを深める。

【到達目標】 社会保障制度の概要と課題を理解し、社会保障の在り方と意義について自ら考える力を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	講義の進め方	柳田
2	社会保障制度の概要	柳田
3	社会保障制度を取り巻く環境	柳田
4	社会保障制度改革の概要	柳田
5	生活保護制度の現状と課題	柳田
6	高齢化の問題と施策の現状と課題	柳田
7	介護保険制度の概要	柳田
8	少子化の問題と施策の現状と課題	柳田
9	障害者に対する施策の現状と課題	柳田
10	医療保険制度の現状と課題	柳田
11	年金制度の現状と課題	柳田
12	雇用保険制度、労災保険制度の概要	柳田
13	社会保障の実施体制	柳田
14	地域共生社会の実現	柳田
15	今後の社会保障	柳田
16	定期試験	柳田

【授業外学修】 予習：毎回の授業を受けるにあたって、教科書の該当頁に目を通してから授業に臨むこと。（約1時間）
復習：授業において進捗した該当の教科書、レジュメを再読し、その日の授業の復習をすること。（約1時間）

【教科書名】 「社会保障入門2024」（中央法規）

【参考書名】 「社会保障論」（法律文化社）

【評価基準】 定期試験80%、講義態度20%

【授業概要】 リハビリテーション全般に関する知識と言語聴覚士の役割について学ぶ。

【到達目標】 言語聴覚士の仕事を知り、リハビリテーション全般に対する意識を持てるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	言語聴覚士の仕事について	島屋敷
2	言語聴覚士の仕事について 役割と意義について	島屋敷
3	リハビリテーションの基本的理解(言語聴覚士の仕事との関係)	島屋敷
4	リハビリテーションの歴史 始まり	島屋敷
5	リハビリテーションの歴史 戦後の動向	島屋敷
6	リハビリテーションの歴史 現代のリハビリテーション	島屋敷
7	リハビリテーションの専門分野	島屋敷
8	国際生活機能分類(ICF)について 基本的考え	島屋敷
9	国際生活機能分類(ICF)について リハビリテーションでの位置付け	島屋敷
10	リハビリテーション評価	島屋敷
11	WHOとQOL(考え方と意義)	島屋敷
12	QOLについて	島屋敷
13	ADLについて	島屋敷
14	ノーマライゼーションの考え方	島屋敷
15	バリアフリー・障害者を取り巻く環境	島屋敷
16	定期試験	島屋敷

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、指示されたテーマについて自分の考えを持つ(0.5時間)

復習:その日の授業内容についてノートを見ながら振り返り、自らの意見を持つ(0.5時間)

【教科書名】 「入門リハビリテーション概論 第7版」(医歯薬出版)

【参考書名】 「改訂版 言語障害総論 I」(建帛社)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 言語聴覚障害学総論（成人）（前期）

授業形態： 講義

担当教員： 木村 隆

1単位

【授業概要】 STの仕事について興味をもってもらうために、将来担当すると思われる成人の言語障害について講義する。その内容を把握し、1年次の見学実習に結び付ける。

【到達目標】 成人の言語障害の概要について理解し、自分のST像をイメージできるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	言語聴覚士について コミュニケーションゲーム	木村
2	言語障害とは？ 言語障害者体験	木村
3	言葉とは？（言語モダリティ、言葉の鎖、言葉の役割、言語体系）	木村
4	言葉のメカニズム（聞こえ、構音、発声発語器官）	木村
5	脳の全体構造	木村
6	言語中枢（ブロードマンの脳地図）及び機能局在	木村
7	ST解剖（前頭葉）	木村
8	ST解剖（頭頂葉）	木村
9	ST解剖（側頭葉）	木村
10	ST解剖（後頭葉）	木村
11	言語障害（失語症の臨床症状①）	木村
12	言語障害（失語症の臨床症状②）	木村
13	言語障害（失語症のタイプ）	木村
14	言語障害（失語症者とのコミュニケーションの取り方①）	木村
15	言語障害（失語症者とのコミュニケーションの取り方②）	木村
16	定期試験	木村

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書の単元を読む（0.5時間）
復習：その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める（0.5時間）

【教科書名】 「絵でわかる言語障害 第2版」（Gakken）

【参考書名】 独自の資料

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

- 【授業概要】** コミュニケーションとは何かについて考える。
聞くこと話すことの仕組みについて理解する。
ことばの生物学的基礎について知る。
言語発達障害について知る。

【到達目標】 コミュニケーションの成立と小児の言語発達の基礎を学び、関連づけられるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	言語聴覚障害とは	松田
2	言語聴覚士の学問分野と言語聴覚士に求められる資質	松田
3	人間の言語とコミュニケーションの特徴について	松田
4	コミュニケーションの成り立ち、ことばの機能について	松田
5	言語音と産出機構	松田
6	飲み込みと摂食嚥下機構	松田
7	聞こえと聴覚機構	松田
8	言語と脳	松田
9	言語発達の阻害要因と言語発達障害	松田
10	言語発達障害の病態①	松田
11	言語発達障害の病態②	松田
12	言語発達障害の臨床(評価・診断)	松田
13	言語発達障害の臨床(指導・支援)	松田
14	検査による言語発達の評価	松田
15	まとめ・復習	松田
16	定期試験	松田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「最新 言語聴覚学講座 言語発達障害学」(医歯薬出版株式会社)

【参考書名】 随時プリントなどを配布する予定

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 言語聴覚障害学概論 (成人)(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 木村 隆

1単位

【授業概要】 STの仕事について興味を持ってもらうために、将来担当すると思われる成人の言語障害について講義する。その内容を把握し、1年次の見学実習に結び付ける。

【到達目標】 成人の言語障害の概要について理解し、自分のST像をイメージできるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	Dysarthriaの歴史発話メカニズム(呼吸-発声-共鳴-構音)	木村
2	発話のメカニズム(呼吸-発声-共鳴-構音)	木村
3	運動障害について	木村
4	錐体路(皮質延髄路を中心に)	木村
5	錐体外路について	木村
6	反射(表在反射・深部反射・病的反射)	木村
7	発声発語器官に関与する脳神経	木村
8	下位運動ニューロン障害について	木村
9	呼吸機能と発声機能	木村
10	共鳴機能と口腔構音機能	木村
11	言語障害(Dysarthriaの臨床症状)	木村
12	言語障害(Dysarthria者とのコミュニケーションのとり方)	木村
13	摂食・嚥下とその障害(5期モデルを中心に)	木村
14	摂食・嚥下障害の問題点と誤嚥について	木村
15	摂食・嚥下障害の機能評価	木村
16	定期試験	木村

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する教科書の単元を読む(0.5時間)
復習:その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める(0.5時間)

【教科書名】 「絵でわかる言語障害 第2版」(Gakken)

【参考書名】 独自の資料

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 小児の言語聴覚障害について学ぶ。

【到達目標】 小児の言語聴覚障害について学び、それぞれの障害に対する概要について把握し、説明ができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	小児の言語聴覚障害について	松田
2	言語発達障害について	松田
3	知的障害	松田
4	発達障害について 自閉症スペクトラム	松田
5	注意欠如多動症	松田
6	学習障害	松田
7	特異的言語発達遅滞 レイトーカー	松田
8	脳性麻痺・重複障害	松田
9	後天性言語障害	松田
10	構音障害(器質性構音障害、機能性構音障害を中心に)	松田
11	吃音 場面緘黙	松田
12	聴覚障害(視知覚二重障害)	松田
13	事例で学ぶ発達障害①	松田
14	事例で学ぶ発達障害②	松田
15	まとめ・復習	松田
16	定期試験	松田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「最新 言語聴覚学講座 言語発達障害学」(医歯薬出版株式会社)

【参考書名】 随時プリントを配布する

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 失語症 I (後期)

授業形態： 講義

担当教員： 島屋敷 英修
1単位

【授業概要】 言語障害の出現メカニズムを学び、失語症の基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】 失語症の出現メカニズムを理解できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	失語症の定義	島屋敷
2	失語症のタイプと症状(ブローカータイプを中心に)	島屋敷
3	失語症のタイプと症状(様々な症状)	島屋敷
4	失語症の歴史(今までの研究)	島屋敷
5	失語症の歴史(現代の考え方)	島屋敷
6	脳の構造と機能(1)	島屋敷
7	脳の構造と機能(2)	島屋敷
8	脳血管障害と失語症の関係(1)	島屋敷
9	脳血管障害と失語症の関係(2)	島屋敷
10	症状の理解 聴覚的理解 Ellis&Young(1)	島屋敷
11	症状の理解 聴覚的理解 Ellis&Young(2)	島屋敷
12	失語症の症状(1) 聴覚的理解 単音レベルから	島屋敷
13	失語症の症状(2) 聴覚的理解 単語レベルから	島屋敷
14	失語症の症状(3) 聴覚的理解 短文レベルから	島屋敷
15	失語症の症状(4) 聴覚的理解 言語表出の障害	島屋敷
16	定期試験	島屋敷

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する教科書の単元を読む(0.5時間)
復習:その日の授業内容についてノートをみながら振り返り再確認する(0.5時間)

【教科書名】 「言語聴覚療法シリーズ4失語症 改訂版第2版」(建帛社)
「脳卒中後のコミュニケーション障害 改訂2版」(協同医書出版株式会社)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 知的障害が言語発達に及ぼす影響について知る。
知的障害児の言語発達や支援の方法について学ぶ。

【到達目標】 知的障害と、言語発達障害の関連について説明ができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	知的障害の定義(DSM-5を中心に)	松田
2	知的障害の原因と発生頻度	松田
3	知的障害の症状特徴	松田
4	知的障害児の言語特徴(認知及び象徴機能面)	松田
5	知的障害児の言語特徴(語彙の発達・意味の発達)	松田
6	知的障害児の言語特徴(統語の発達・語用の発達)	松田
7	ダウン症について	松田
8	ダウン症児の運動発達・構音発達について	松田
9	ダウン症児の言語発達について	松田
10	知的障害児に対する言語評価	松田
11	知的障害児への諸検査	松田
12	知的障害児への言語訓練	松田
13	知的障害児への具体的な言語面の指導プログラム	松田
14	療育手帳について	松田
15	まとめ・復習	松田
16	定期試験	松田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「最新 言語聴覚学講座 言語発達障害学」(医歯薬出版株式会社)

【参考書名】 独自の資料

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 小児聴覚障害を理解するうえで必要な聴覚の基本的な解剖・生理・病態、また成人と小児の違いを知る。新生児～乳幼児の聴覚発達を学び、小児聴覚障害の原因、その評価法の種類と特性を学ぶ。

【到達目標】 聴覚系の基礎構造・機能を理解し、病態と関係づけることができるようになる。
聴覚障害児と正常児の言語発達の違いについて説明することが出来るようになる。
小児聴覚障害の評価方法の特徴や手技を知り、説明することが出来るようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	小児聴覚障害総論(1) I.聴覚障害の概要	河野
2	小児聴覚障害総論(2) II.ライフステージとの関連	河野
3	聴覚障害とライフステージ	河野
4	聴覚の発達	河野
5	聴覚系の構造と機能(1)	河野
6	聴覚系の構造と機能(2)	河野
7	障害部位と難聴の種類(1) 伝音難聴	河野
8	障害部位と難聴の種類(2) 感音難聴・混合性難聴	河野
9	難聴の原因と発症時期	河野
10	難聴と言語機能(1)	河野
11	難聴と言語機能(2)	河野
12	聴覚障害性構音障害について	河野
13	聴覚検査 各種検査	河野
14	聴覚検査 新生児・乳幼児聴覚検査	河野
15	リハビリテーションの歴史と現状、まとめ	河野
16	定期試験	河野

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書の単元を読む(0.5時間)
復習：その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める(0.5時間)

【教科書名】 「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」(医学書院)
「言語聴覚療法シリーズ5 聴覚障害Ⅰー基礎編」(建帛社) 「言語聴覚療法シリーズ5 聴覚障害Ⅱー臨床編」(建帛社)

【参考書名】 「聴覚検査の実際」(南山堂)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 成人聴覚障害を理解するうえで必要な聴覚の基本的な解剖・生理・病態を学ぶ。
聴覚障害の原因になる代表的な疾患を学ぶ。
聴覚障害の評価法を学ぶ。

【到達目標】 音の特性や音を認識するまでの過程を理解し、説明することができるようになる。
聴覚系の基礎構造・機能を理解し、病態と関係づけることができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	音について	東
2	成人聴覚障害の概要(1) 聴覚障害とは	東
3	成人聴覚障害の概要(2) 成人聴覚障害の分類	東
4	聴覚系の解剖(外耳-中耳)	東
5	聴覚系の解剖(内耳-後迷路)	東
6	伝音系の聴覚機構	東
7	感音系の聴覚機構	東
8	両耳聴と方向覚	東
9	聴覚系の構造・機能まとめ(1):グループワーク	東
10	聴覚系の構造・機能まとめ(2):グループワーク	東
11	伝音難聴と感音難聴	東
12	伝音系の障害	東
13	感音系の障害	東
14	伝音難聴と感音難聴	東
15	検査と評価;聴覚検査の種類	東
16	定期試験	東

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する教科書の単元を読む(0.5時間)
復習:その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める(0.5時間)

【教科書名】 「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」(医学書院)
「言語聴覚療法シリーズ5 聴覚障害Ⅰ-基礎編」(建帛社)

【参考書名】 「病気がみえる 耳鼻咽喉科」(メディックメディア)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 医療の現場にて、言語聴覚士の仕事を知る。

【到達目標】 言語聴覚士の役割を知る。

【授業の進め方】

授 業 内 容	
	各病院にて1週間の見学実習を行う。
1) 目的:	言語聴覚士が勤務する実際の臨床現場を見学し、観察学習を通じて下記の事項について学習する。
	①言語聴覚士の言語臨床の実際や教務などの概要を把握する。
	②言語聴覚士と患者(患児)および家族との関わり方を通じて、言語聴覚士として適する態度や接遇などを学ぶ。
	③臨床施設の機能および施設内における言語聴覚士の役割や他職種との連携などについて学ぶ。
2) 実習内容:	
	①言語聴覚士の臨床に対する理解を深める。
	②臨床実施における言語聴覚士の役割を理解する。
	③ポイントを押さえた観察記録の作成が適切にできる。
3) 実習終了後学内で実習についての発表を行う	
4) 実習教育者	
	臨床実習教育者・専任教員

【授業外学修】 予習:実習に臨む前に、該当する教科書・資料等を確認し、必要な実技等の確認を行う。(約1時間)
 復習:一日の実習内容を整理し、不十分だった点など理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】

【実務経験】

「言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編」「言語聴覚士のための臨床実習テキスト 小児編」

実習成績80% 演習発表20%

言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 小児や成人の訓練計画と訓練実施に向けて計画と実践を体験する。
患者様とのコミュニケーションスキルを高める。
文章力を身に着ける。

【到達目標】 さまざまな意見を通して、患者様との関係を考え、適切な行動がとれるようになる。
クラスで発表する機会を通して患者とのコミュニケーションスキルを高める。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	作文 私目指す言語聴覚士像	島屋敷
2	文章理解 さまざまなとらえ方	島屋敷
3	絵本の読み聞かせ① 絵本選び	島屋敷
4	絵本の読み聞かせ② グループ練習	島屋敷
5	絵本の読み聞かせ③ 発表会	島屋敷
6	手遊び歌① 曲遊び 資料映像鑑賞	島屋敷
7	手遊び歌② 曲遊びと手遊びの作成	島屋敷
8	手遊び歌③ 曲遊びと手遊びの作成	島屋敷
9	手遊び歌④ 曲遊びと手遊びの作成	島屋敷
10	手遊び歌⑤ リハーサル	島屋敷
11	手遊び歌⑥ 発表会	島屋敷
12	医療系の文献を読む ①文献を選ぶ	島屋敷
13	医療系の文献を読む ②文献をまとめる	島屋敷
14	私のおすすめの本 ①本の選択と推薦文作成	島屋敷
15	私のおすすめの本 ②製本と読み合わせ	島屋敷

【授業外学修】 予習:授業テーマに即した課題を進める(0.5時間)
復習:課題についてクラスメートと討議を行う。(0.5時間)

【教科書名】 配付資料

【参考書名】

【評価基準】 個人・グループ発表 70% レポート20% 授業態度10%:積極的な授業への参加

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加